

施工段階		下地・間仕切り		6	設備工事： 天井内機器取付	シート番号 6-4			
電気	空調	衛生	その他						
○	○	○	—						

ポイント

■施工順序について

- ・天井仕上げ工事の前に、配管・ダクトを布設するだけでなく、圧力試験や保温工事を完了させておく必要があります。
- ・配管やダクト、ケーブルラックを上下に設置するために、設備工事（空調・衛生・電気）のなかでも、施工順序をあらかじめ決めておく必要があります。

■支持方法について

- ・設備機器の重量や要求される耐震性能に合った支持方法（支持部材や吊り間隔、振れ止め等）を検討しておくことも必要です。（参考：日本建築センター 建築設備耐震設計施工指針）

先輩アドバイス

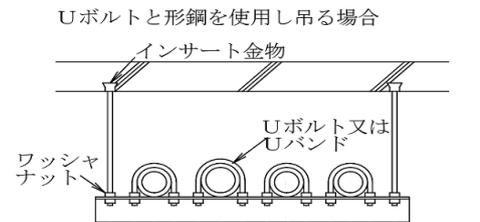
- ・特に壁や梁を貫通する設備工事については、事前に建築工事と施工順序を調整しておくことにより、設備工事を先行して進めることもできます。
- ・点検口は必ず現地で最終確認をしてください。
設備機器の近くに設置されている場合であっても、向きや高さが合わなかったり、天井下地等によりメンテナンスが出来ないことがあります。

チェック項目

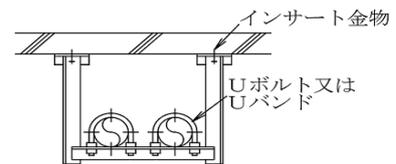
- ケーブルラック、電線管、ダクト、配管などはお互いが干渉しないように施工されていますか。
- 振動機器や配管に必要な防振がなされていますか。
- 設備機器（フィルタ・ダンパ・バルブなど）の点検が可能な位置に点検口がありますか。
- ダンパのレバー操作や空調機のフィルター交換を行うためのスペースが機器の周りに確保されていますか。

失敗すると...

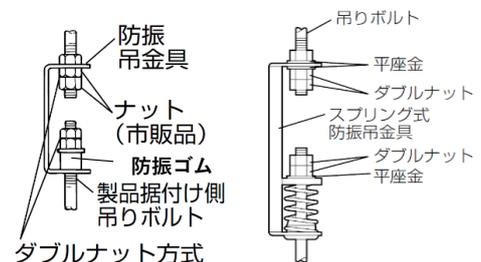
- ・点検口が適切な位置に無いと、メンテナンスができません。
- ・機器等の耐震措置が不十分だと、地震時の『振れ』によりアンカーやつりボルトの損傷による落下の恐れのみならず、近傍の配管及び天井材等のつりボルトまで影響し、被害の拡大につながります。
- ・吊り間隔や支持材が適切でないと、配管等の落下のおそれがあります。



形鋼振れ止め支持



配管支持 例



防振ハンガー
(左：ゴム、右：スプリング)

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	-	-	○	-	-	-	-	-	-
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：三菱電機㈱						改訂	2023年3月1日	